



NPO法人「ルワンダの教育を考える会」は、現地に事務所（責任者／カリオペ医師）を開設し、山間地に追いやられて大虐殺を受け、極貧状態にあるミヨベ村（ミチヨンビ地区）への支援にも力を注いでいます。

国や国連、諸外国の協力を開設した保健センターを拠点に、幼児とその家族を救済する活動です。具体的には、幼児への給食配給や読書指導、親のおかゆ作り教室、および2中学校・1小学校の集団検診（長崎大医学部との連携）などです。

それにしても、首都キガリから約3時間、山間地の頂上に位置するミヨベは、気圧が低く、お菓子の包み紙が大きく膨張するほどでした。夏というのに防寒着や長袖が必要です。中にはツナギなど服1枚を着て、陽の温かさを求める子もいました。

また、電気の使用は今もなく、来年度までに配線用の電柱が建つにしても、各家庭に電灯がとれるのはさらに2〜3年後となるでしょう。

9月に子どもたちの集団検診が予定されていると

いので、今回私たちは大人を対象に身体検査をしました。その結果、
 (ア) 身長・体重ともに、学園職員の値と比べて小さい。
 (イ) 肥満度の指標BMIの平均が18・2で痩せ型の方が多く、栄養不足の傾向がある。
 (ウ) 血圧は、最低血圧の平均が76 mmHgに対し、最高血圧の平均が154 mmHgとやや高い。

(エ) 脈拍数は、男女ともに平均約68回/分で標準の値と言える。
 (オ) 視力は、男性は全員Aであるが、女性はC・Dに集中し、視力の低下が著しい。

(カ) すべての項目で日本の標準値を満たす1組の夫婦があり、その生活様式に注目したい。
 (キ) 自分の名前を書けない、10進法が分からないという人も多く、学習対策



極貧状態にあるミヨベ村から次々と住民が集まる

惨劇の山間地で極貧に暮らす 電気もなく



素足の子とも防寒着の訪問者

が必要である。それにしても、当初20人を予定していましたが、続々と住民が集まり、計20組40人の調査となりました。大人自身の健康への関心の高さがうかがえました。

なお、4組の妊娠者を確認しましたが、30代後半が多く（43才1名）、平均寿命64才にしては妊娠年齢が高いこと。また、右目失明（女1）、HIV陽性（男女各1）、マラリア被疑（男1）の数を、センター役員に報告しました。

さらに、住宅内の照度検査、および耕作地の土壌調査から

(ア) 部屋はすべて500ルクス以下で、床に直接寝たり、食事等をしている。照度向上が急務である。

(イ) 土地の照度は6万ルクス以上、PH7・1、水分表示DRY+で、栽培植物が限定される。

水の問題も含め、専門的なアプローチが必要です。（次回につづく）

（嶋田秀樹＝須坂市田の神町在住、元教員）